平成23年7月29日

平成23年 第7回

東大和市教育委員会定例会会議録

東大和市教育委員会

平成23年第7回東大和市教育委員会定例会会議録

1. 日 時 平成23年7月29日（金曜日）午前9時30分～午後2時39分

2. 場 所 東大和市役所会議棟第6・7・8会議室

3. 出席委員 1番 鈴木敏彦（委員長）

2番 小泉美佐子

3番 土田 豊

4番 武石修一郎

4. 欠席委員 なし

5. 説明職員

教育長職務

代理者

学校教育部長

学校教育部

参事兼

指導室長

建築課長兼

教育施設担当

副参事

統括指導主事

社会教育部

副参事

（国体準備

担当）

中央図書館長

野口 弘

小島昇公

金城 徹

堂垣隆志

岡田博史

高橋宏之

社会教育部長

学校教育課長

給食課長

社会教育課長

中央公民館長

兼狭山

公民館長

小俣 学

田代雄己

梶川義夫

佐伯芳幸

乙幡正喜

6. 書 記

庶務係長

小川 圭

主 事

谷本 惇

○議事日程

第1 会議録署名委員の指名

第2 教育長諸務報告

第3 第23号議案 平成24年度使用東大和市立中学校用教科書の採択について

第4 第24号議案 平成24年度使用東大和市立小・中学校特別支援学級用教科書の採択について

第5 その他報告事項 平成22年度東大和市学校給食会計決算の報告について

◎開会の辞

○鈴木委員長 ただいまから、平成23年第7回東大和市教育委員会定例会を開催いたします。

◎日程第1 会議録署名委員の指名

○鈴木委員長 日程第1、会議録署名委員の指名を行います。
会議録署名委員は武石委員にお願いします。

○鈴木委員長 ここで、傍聴の許可についてお諮りいたします。
本日の会議について、傍聴を許可することにご異議ございませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○鈴木委員長 ご異議なしと認め、傍聴を許可いたします。

◎日程第2 教育長諸務報告

○鈴木委員長 日程第2、教育長諸務報告を行います。
教育長職務代理者。

○小島教育長職務代理者学校教育部長 それでは、平成23年6月24日から23年7月28日までの教育長諸務報告を申し上げます。

初めに、平成23年6月24日に第七小学校の授業公開を見学いたしました。非常に落ちついた授業風景でございました。

6月28日に、定例校長会に出席をいたしました。新年度を迎え、3箇月を無事に経過したことに対しお礼を申し上げるとともに、市内放射線量測定の報告を行い、加えて熱中症対策及び節電対策についてお願いをしております。

7月3日に、大和・村山家庭婦人春季バレーボール大会開会式に出席いたしました。参加チームは、暑さにも負けずに日ごろの練習の成果を存分に発揮して熱戦が繰り広げられました。

7月7日に、教育委員会の学校訪問で、第十小学校を訪問いたしました。

同日、市民文化祭実行委員会に出席いたしております。第41回東大和市民文化祭実施協定書等の説明があり、事業概要が承認されております。なお、実行委員

長には大河原万里子様を選出されております。

7月8日に、郷土博物館協議会に出席し、委嘱状を交付いたしております。10名の委員のうち、4名が新任の委員でございます。

同日、教育委員会懇談会に出席しております。

翌7月9日には、社会を明るくする運動の事業、中学生による意見発表を見学いたしました。全中学校から6組が発表を行いました。非常に落ちついて内容のある発表でございました。

7月11日には、市民体育大会、ふれあい市民運動会の主催者会議に出席いたしました。第42回東大和市民体育大会協定書等の説明がなされ、了承されております。なお、改善点につきましては、今後引き続き検討していくこととされております。

同日、七市教育長会に出席をいたしました。各市の情報交換をいたしております。

7月12日には、教育委員とPTA連合協議会との懇談会に出席いたしました。各委員さんより質問に対する回答をしていただいております。

7月13日には、東京都市教育長会に出席いたしております。各種委員の就任及び平成24年度東京都予算編成に対する要望事項等が議案として審議され、了承されております。さらに、東京都より何点か連絡事項がございました。

7月14日には、学校給食センター運営委員会に出席いたしました。平成22年度東大和市学校給食会計収入支出決算について承認をいただいております。

7月15日には、文化財専門委員会に出席しております。10名の委員を委嘱いたしました。2名が新規の委員であります。平成22年度の事業概要及び平成23年度の事業計画が説明され、了承されております。なお、委員長には田村善次郎様を選出されております。

7月19日には、教育委員による中学校教科書採択のための事前勉強会に出席いたしました。特別支援用教科書を含め、20日、22日、25日にも勉強会を開催し、事前勉強をいたしております。

7月21日には、経営塾やまとの講演会に出席いたしました。講師には、現在三鷹の教育長で、東大和市でも指導室長を経験された貝ノ瀬様を迎え、コミュニティスクールについての講演がございました。

同日、3市合同初任者宿泊研修事前研修会に出席いたしました。

7月22日には、夏休みラジオ体操会開会式に出席いたしました。当日は、ラジオ体操会の指導のもと、子供から高齢者までたくさんの人々が参加し、元気よく体操を行っておりました。

同日、スポーツ祭東京2013東大和市実行委員会設立発起人会に出席いたしました。第68回国民体育大会と第13回全国障害者スポーツ大会の愛称が、スポーツ祭東京2013でございます。東京都での開催は54年ぶりであり、多摩地域では初めてとなります。なお、東大和市では正式競技としてボウリング競技を開催いたします。デモンストレーションといたしまして、スポーツチャンバラも開催することとなっております。設立趣意書及び実行委員会会則が承認されております。

7月26、27日には、3市教職員宿泊研修会に参加いたしました。200名を超える教職員の参加の中、講演のほか各分科会を開催し、指導力アップのための研修が実施されております。なお、来年度は東大和市が幹事市となります。

7月27日には、東大和市表彰審査会に出席しております。10月1日の市政功労者表彰の候補者につきまして審査をいたしました。

最後になりますが、7月28日には東京都市教育長会主催の研修会に出席いたしました。講師にスポーツジャーナリストの二宮清純氏を迎え、スポーツに見る人材育成術につきまして講演が行われております。

以上で諸務報告を終了させていただきます。

○鈴木委員長 教育長諸務報告が終わりました。

ただいまの報告についてご質疑等ございましたら、ご発言をお願いいたします。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 教育長諸務報告を終わります。

◎日程第3 第23号議案 平成24年度使用東大和市立中学校用教科書の採択について

◎日程第4 第24号議案 平成24年度使用東大和市立小・中学校特別支援学級用教科書の採択について

○鈴木委員長 日程第3、第23号議案 平成24年度使用東大和市立中学校用教科書の採択について、日程第4、第24号議案 平成24年度使用東大和市立小・中学校特別支援学級用教科書の採択について、以上の2件は関連がありますので、一括して議題に供します。

議案の朗読をお願いします。

(書記朗読)

○鈴木委員長 説明をお願いいたします。

教育長職務代理者。

○小島教育長職務代理者学校教育部長 ただいま議題となりました第23号議案 平成24年度使用東大和市立中学校用教科書の採択について及び第24号議案 平成24年度使用東大和市立小・中学校特別支援学級用教科書の採択についてを、一括して提案理由並びに内容のご説明を申し上げます。

本件は、平成24年度から使用する中学校教科書及び小・中学校特別支援学級用教科書を決定していただくために、ご提案申し上げるものでございます。

これまで、東大和市立小・中学校教科書採択要綱及び同事務要領に基づき、中学校教科書採択資料作成会議及び小・中学校特別支援学級用教科書採択資料作成会議、中学校教科書調査部会及び小・中学校特別支援学級用教科書調査部会を設置し、小・中学校の校長、教員、保護者の代表の方を委員、部員といたしまして約3箇月間にわたり調査・研究をしていただきました。その結果、採択資料作成会議から、平成23年7月15日付で、平成24年度東大和市立中学校及び小・中学校特別支援学級用教科書について調査・研究の結果をいただきました。

本日は、資料作成会議からの報告書について、資料作成会議委員からご説明いただき、教育委員の皆様から質疑を経て、来年度から使用する教科書のご決定をお願いしたいと存じます。

なお、中学校は平成24年度から4年間使用する教科書で、特別支援学級用の教科書は、学校教育法附則第9条に規定されている教科書であります。

詳細につきましては、指導室長から説明をいたしますので、よろしくお願いいたします。

○鈴木委員長 指導室長。

○今城学校教育部参事兼指導室長 それでは、初めに報告までの経過と採択に至る手順につきましてご説明いたします。

去る5月12日に、第1回教科書採択資料作成会議を開催し、教育長より平成24年度使用東大和市立中学校教科書、平成24年度使用東大和市立小・中学校特別支援学級用教科書にかかわる調査・研究を依頼いたしました。

その後、中学校等の種目ごとの各教科書調査部会での調査・研究を経て、6月

23日、7月12日の2回にわたって採択資料作成会議を行い、熱心に、かつ厳正にご協議をいただきました。

先ほど教育長職務代理者学校教育部長からありましたように、7月15日に採択資料作成会議座長から報告をいただいたところであります。それが、お手元の調査・研究に関する報告書であります。

次に、本日の教育委員会における採択に至る手順につきまして、ご提案させていただきます。

本日の午前中につきましては、採択資料作成会議の座長及び委員の方々から、審議経過及び報告概要の説明、各種目ごとの資料の説明、また市民及び学校からの意見をご説明いただき、それに対して教育委員の方々からご質疑をお願いできればと考えております。

なお、質疑が終わりましたところで、教育委員会としての基本的な考え及び採択規準、これは規準でございます。並びに、同じ基準ですけれども、基準等について再度ご確認いただき、その後、種目ごとの審議を経て、種目ごとの採択を行っていただきたいと考えております。事務局といたしましては、特に支障がある場合を除き、以上のような手順を考えております。

以上でございます。

○鈴木委員長 採択に至る手順については、ただいま事務局より提案がありましたが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○鈴木委員長 異議なしと認め、採択に至る手順につきましては、事務局からの提案のとおり進めます。

ここで、中学校教科書採択資料作成会議及び小・中学校特別支援学級用教科書採択資料作成会議の委員の方々にお入りいただきます。

(委員入室)

○鈴木委員長 指導室長、続けてください。

○今城学校教育部参事兼指導室長 続きまして、本日ご出席いただきました各教科書採択資料作成会議委員の方々を紹介いたします。

中学校教科書採択資料作成会議座長、理科調査部会、佐々木辰彦、第四中学校長でございます。

○佐々木中学校教科書採択資料作成会議座長 おはようございます。よろしくお願

いします。

○今城学校教育部参事兼指導室長 国語調査部会、中島富士雄、第四中学校副校長
でございます。

○中島国語調査部会長 おはようございます。

○今城学校教育部参事兼指導室長 社会調査部会、高岡麻美、第二中学校長でござ
います。

○高岡社会調査部会長 よろしくお願ひいたします。

○今城学校教育部参事兼指導室長 数学調査部会、長野基、第一中学校副校長でござ
います。

○長野数学調査部会長 よろしくお願ひします。

○今城学校教育部参事兼指導室長 音楽調査部会、石井裕光、第三中学校長でござ
います。

○石井音楽調査部会長 よろしくお願ひいたします。

○今城学校教育部参事兼指導室長 美術調査部会、半田道夫、第五中学校長でござ
います。

○半田美術調査部会長 よろしくお願ひいたします。

○今城学校教育部参事兼指導室長 保健体育調査部会、鈴木直也、第五中学校副校
長でございます。

○鈴木保健体育調査部会長 よろしくお願ひいたします。

○今城学校教育部参事兼指導室長 技術・家庭調査部会、齊藤真、第二中学校副校
長でございます。

○齊藤技術・家庭調査部会長 よろしくお願ひいたします。

○今城学校教育部参事兼指導室長 外国語、英語調査部会、水越伸朗、第三中学校
副校長でございます。

○水越英語調査部会長 よろしくお願ひします。

○今城学校教育部参事兼指導室長 特別支援学級図書採択資料作成会議座長、小学
校特別支援学級用調査部会、吉田健、第九小学校長でございます。

○吉田特別支援学級図書採択資料作成会議座長 よろしくお願ひいたします。

○今城学校教育部参事兼指導室長 中学校特別支援学級用調査部会、曾根信行、第
一中学校長でございます。

○曾根中学校特別支援学級用調査部会長 よろしくお願ひいたします。

○**今城学校教育部参事兼指導室長** 全体にかかわる報告につきましては、中学校教科書採択資料作成会議座長から報告していただきます。

以上でございます。

○**鈴木委員長** 中学校教科書採択資料作成会議座長から、全体にかかわる報告をお願いします。

中学校教科書採択資料作成会議座長。

○**佐々木中学校教科書採択資料作成会議座長** それでは、私のほうから説明させていただきます。

初めに、報告までの経過についてご説明させていただきます。

去る5月12日に、第1回教科書採択資料作成会議が開催され、その席上、教育長から、平成24年度に使用する東大和市立中学校用教科書、東大和市立小・中学校特別支援学級用教科書にかかわる調査・研究の依頼を受けました。

その後、中学校は種目ごと、特別支援学級用の教科書については、校種別に教科書調査部会を開催し、2回から3回にわたり調査・研究を行いました。

調査部会で作成された資料を、6月23日と7月12日の2回にわたり教科書採択資料作成会議で慎重に検討並びに協議を行い、教育委員会に提出する報告書を作成いたしました。

7月15日に、採択資料作成会議座長が代表いたしまして、教育長職務代理者にご報告をさせていただいたところです。

次に、教科書の調査・研究に際して、基本方針と留意事項ですが、1つ学習指導要領に示された目標等を踏まえること。2つ、地域の実態、学校の実情に即して、学習指導要領に示す目的や内容等を、市内の小・中学生が学習する上で、効果的な教科書になり得ているかといった2つの観点で調査・研究を行ってまいりました。

なお、調査・研究の資料を作成する中学校用の教科書については、文部科学大臣の検定を経て、教科書目録に登載されている教科書であり、東京都教科用図書選定審議会の答申を尊重し、1つ、内容の選択、2つ、構成・分量、3つ、表記・表現及び使用上の便宜、そして4つ、その他教科の特性に基づいて特に調査・研究が必要な事項を調査・研究してまいりました。

また、特別支援学級用教科書につきましては、学校教育法附則第9条の定めによる教科書でありますことから、今年度使用しております教科書の中で特に支障

があり、これより明らかに優れているものがある場合において、採択替えを行う必要があると考えた教科書について調査・研究を行ってまいりました。

以上、公正で適正かつ円滑な採択が実施されますよう調査・研究をいたしまして、報告をさせていただいた次第でございます。

なお、市民の方及び学校からもご意見を承る機会を設けましたが、このことについては後ほど説明させていただきます。

以上です。

○鈴木委員長 ただいまの報告につきまして、質疑をお願いいたします。

小泉委員。

○小泉委員 資料作成会議の皆様、大変ご苦労さまでした。

概括的なことを座長にお尋ねしたいと思います。

各教科とも教える内容が増え、教科書のページ数も増えているのが現状であります。先生方はこの内容をすべて教えることができるのでしょうか。子供たちの立場からしては、どうでしょうか。このことは、報告書を見させていただきますと、各教科の構成・分量等の項目で、適切な分量であるという表記が多く見られます。この適切な分量とは、どのような基準を持って判断をされているのでしょうか。お考えをお聞かせください。

○鈴木委員長 中学校教科書採択資料作成会議座長。

○佐々木中学校教科書採択資料作成会議座長 確かに各教科書とも分量が増え、厚くなっております。教える内容も増えていることも事実でございます。その部分だけを見ますと、教員も子供も負担感があるように感じるかと思えます。しかし、教える時間も増えております。今回の調査・研究の報告書にもありますように、子供たちが学習しやすいように、資料や図版等、各教科書会社とも工夫を凝らした内容の構成になっております。小学校との系統も考えられております。適切な分量との判断は、1単位時間で学習する内容が、子供たちの能力に合わせたとき適切であるかどうかで判断をしました。

私たち教員は、各教科の年間指導計画を綿密に立て、基礎的、基本的な知識・技能の習得、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などの育成、そして学ぶ意欲を高めていくよう努力してまいります。

以上でございます。

○鈴木委員長 ほかに質疑はございませんか。

土田委員。

○**土田委員** 今の質問と関連しているのですが、学校では今回の教科書が変わることについて、何か特に考えていることはあるのですか。本当に使いこなせるのかどうか、具体的な方策があれば聞かせてください。

○**鈴木委員長** 中学校教科書採択資料作成会議座長。

○**佐々木中学校教科書採択資料作成会議座長** 先ほどもお話ししましたが、この教科書を使っての年間指導計画や評価計画等をしっかり作成することが大切であると考えております。また、今回の学習指導要領、総則の第1、教育課程編成の一般方針という中にもありますように、家庭との連携も子供たちの学力を向上させる重要なポイントと考えております。教科書を活用して、家庭で復習や予習を行うなど、家庭学習を定着させていくことも大事な視点であると考えております。以上です。

○**鈴木委員長** ほかに質疑ございませんか。

(発言する者なし)

○**鈴木委員長** それでは、次に各種目ごとの概要と調査・研究資料の教科書ごとの主な特徴等についてのご説明をお願いします。

なお、説明と質疑につきましては、国語の次に社会というように種目ごとに行いますので、あらかじめそのつもりでお願いいたします。

なお、市民及び学校からの意見につきましては、後ほどご説明いただくことにいたします。

それでは、最初に国語及び書写の調査部会長からご説明をお願いいたします。

国語調査部会長。

○**中島国語調査部会長** 国語です。国語につきましては、国語の本編と、それから書写の教科書に分かれております。まず、国語本編から説明いたします。

合本のもの、分冊化のもの、それぞれございます。印刷、色使い、文字の大きさと、いずれの会社におきましても適切であると判断いたしました。

また、内容につきましてはですが、目次の部分から文部科学省が学習指導要領で示している取り扱い内容との関連との紹介であるとか、言語活動への取り組みなど、積極的に新しい取り組みを各社とも取り入れております。

国語の教科書の内容につきましては、論説文、小説、随筆等の散文、あるいは詩、和歌、俳句等の韻文、あるいは古文等、さまざまな日本語の活動を紹介、あ

るいは教材化しております。また、文法、漢字、作文の書き方、読書の勧め等のコーナーを各社ごとにコラムという形で出して、特色を出しておりました。

書写にまいります。

書写につきましても、分冊化のものと合本のものがございます。それぞれ硬筆、毛筆等、四季折々に合わせた手紙であるとか年賀状等の書き方、あるいは学校行事における礼状の書き方など、それぞれ工夫を凝らしておりました。

また、書写ならでは印刷、これは文筆であるとか、さまざまな用具の紹介であるとかを、カラー印刷でわかりやすく紹介してございました。また、手本の字体についても、それぞれ生徒の学習に適したような形で工夫しておりました。

以上です。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いいたします。

土田委員。

○土田委員 今年度の小学校の教科書には、多様な言語活動が示されていたり、古典が教材化されたりしていますが、中学校教科書において言語活動や古典教材の扱いは、どのように取り上げられていますか。

○鈴木委員長 国語調査部会長。

○中島国語調査部会長 各教科書会社とも、それぞれ言語活動や古典教材を充実化させています。例えば、小学校での学習を振り返りながら、その学習内容との接続に配慮したものや、古語の決まり等を詳しく解説されているものがあります。生徒の古典への興味・関心を一層高められるよう、伝統的な言語文化について工夫して取り上げています。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 東大和市の子供たちの読書量が気になるところです。教科書の中で読書に関して取り上げているものが少ないように感じるのですが、いかがでしょうか。

○鈴木委員長 国語調査部会長。

○中島国語調査部会長 各社とも読書紹介コーナーや、その単元で学習したものと関連し、それぞれ図書を紹介するページを設けています。取り上げている教材の現代的な作品も各社とも充実していますし、その作品や作家も、中学生に読んでほしいということを前提に、各社とも紹介しているものと思われまます。もちろん教科書の作品と関連して、教員からも図書館指導員との関連を図って、読書指導

を続けていきたいと考えております。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 教科書の中で、分割のものと合本のものがありますけれども、学校で生徒が使用する際には、どちらのほうを使い勝手がよろしいのでしょうか。

○鈴木委員長 国語調査部会長。

○中島国語調査部会長 どちらも一長一短があると思います。指導する、また生徒が学習することにおいて、不都合を感じるようなことはどちらもないと思われま

す。

○鈴木委員長 ほかに質疑ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 では、書写に移ります。

土田委員。

○土田委員 国語の教科書と書写の教科書は、同一の出版社のほうがいやすさといった点でよいのではないのでしょうか。

○鈴木委員長 国語調査部会長。

○中島国語調査部会長 構成など関連が働いている部分はございますが、各教科書ともよく工夫されており、必ずしも同一の出版社のほうがいやすいといったようなことはございません。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 新しく指導要領が変わりましたが、書写についての指導時間はどのように変わったのでしょうか。

○鈴木委員長 国語調査部会長。

○中島国語調査部会長 現行の学習指導要領では、時数でいうと1年生が28時間程度、2・3年生が各11時間程度です。新学習指導要領では、1・2年生が20時間程度、3年生が10時間程度となっており、トータルでは両方とも50時間程度と大きく変わりはございません。

○鈴木委員長 ほかにございませんか。

では、私のほうから1点ですけれども、書写は基本的に書くときの姿勢とか筆の持ち方とか、あるいは墨のすり方とか、そういう指導も非常に大切な部分かと思われませんが、実際には中学校では墨をすって学習するとか、そういう点はどのようになっているのでしょうか。

国語調査部会長。

○中島国語調査部会長 各教科書では、書くときの姿勢や筆の持ち方等の指導には力を入れており、初めに紹介しましたように、教科書の初めの部分に写真であるとかイラストであるとか、わかりやすく示されています。また、これは分冊であっても、学校の場合は両方でも同じように扱っております。

また、ご質問にありましたように、墨をすることについて取り上げている教科書もございます。用具等の中で説明している場合もございます。実際の指導でも、書写の一番の基本となるところの姿勢や筆の持ち方等は、授業の初めで各教員のほうから丁寧に指導しております。

○鈴木委員長 ほかございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 なければ、次の社会及び地図に入ります。

社会及び地図の調査部会長から説明をお願いいたします。

社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 それでは、社会科及び地理の調査・研究概要についてお話をしていきます。

今回の学習指導要領では、習得、活用、探求といった学習の流れが重視されております。

習得に関しては、章のまとめや確認などといったコーナーで、基礎的、基本的な事項の徹底を図る工夫が各教科書でなされておりました。

活用については、写真や統計資料など視覚的な資料を工夫し、読み取りなどの作業に適した内容になっておりました。また、グラフの見方などについて詳しく説明をしている教科書もございました。

探求については、学習したことをまとめるコーナーがそろっていて、振り返りを行わせるのに大変効果的でした。発展的な課題についても、充実を各教科書ともしておりました。

また、言語活動の工夫については、例えば年表形式とか、新聞形式でまとめるとか、または論文形式でまとめるなど、さまざまな方法で表現力の育成を図る工夫が見られました。

以上で終わります。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いいたします。

土田委員。

○土田委員 初めに、地理的分野で質問をさせていただきます。

地理的分野において、新学習指導要領では、世界や日本の諸地域の特色を学ぶ項目が設定されています。各教科書で工夫している点がありましたらご説明をお願いします。

○鈴木委員長 社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 各教科書ともに、各単元のまとめの部分で、基礎的、基本的な知識・概念を習得させる工夫を行っております。ある教科書では、重要語句を特に強調する工夫もあります。また、まとめの部分で基礎的、基本的な知識の定着を図るだけでなく、まとめる、表現する、記述するなど、さまざまなまとめ方、表現力の充実を図る工夫が見られる教科書もあります。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 関連した質問ですが、世界のさまざまな地域の調査では、作業的な学習活動を取り上げているかと思えます。レポートの作成も、学び方を身につける上で大切な活動かと思われませんが、その点についてはいかがでしょうか。

○鈴木委員長 社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 各教科書では、調査結果をまとめ発表する方法として、レポートをつくるだけでなく、レポートを書く、壁新聞をつくるなど、さまざまな取り組みを紹介しています。これは地理の学習だけでなく、ほかの教科とも関連深く、大事な学習になると思えます。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 調査活動において、インターネットの活用といった点についてはどうでしょうか。また、思考力や表現力の育成についてはいかがでしょうか。

○鈴木委員長 社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 各社とも調査活動の部分においては、インターネットを取り上げております。今問題となっているコピー・アンド・ペーストについても触れている教科書もあります。自らの考えを表現する力についても、しっかり育成していく必要があります。これは歴史的分野においても、言語活動の充実のため、自分の言葉で各時代の特色等について表現することが求められています。

○鈴木委員長 ほか。土田委員。

○土田委員 では、歴史的分野の話が出ましたので、そちらの質問でもよろしいで

しょうか。

基本的な質問なのですが、小学校でも日本の歴史を学んでいます。小学校と中学校で大きな違いは何でしょうか。そのあたりで各出版社は工夫を凝らしていますか。

○鈴木委員長 社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 小学校では人物を中心に学習し、日本の歴史の大きな流れをつかみます。中学校では、当時の社会がどんなものだったのか、その背景を学びます。また、そのとき世界はどうだったのかという大きな視野を持つため、世界史も学びます。人の考え方や生き方などにも注目し、課題を追求していきます。その意味では、各社とも資料が充実しております。

○鈴木委員長 ほかがございませんか。

なければ今の資料についてですけれども、大変、私の見ただ目では資料が多い教科書もあるように思われるんですけれども、資料が豊富だということは大切でしょうけれども、多ければ多いほどいいというものでもないんじゃないかと思うわけですが、その点いかがでしょうか。

社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 確かにそのとおりでございます。やはり教科書の資料として大事なものは、その資料の質、資料の内容です。その資料から生徒が課題を持って学べる、または課題追求のために役に立つものかどうかです。意味のある資料が重要だと考えております。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 現代史について伺います。

現代史は、どうしても最後のほうで学ぶことになり、時間がない中で急いで授業を行ってしまうことが多いようにお見受けしますが、この点はいかがでしょう。

○鈴木委員長 社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 今回の学習指導要領では、3年生の時数について85時間から140時間に増えております。そのため、各分野の履修については、1・2年生を通じて地理的分野と歴史的分野を並行して学習し、3年生においては歴史的分野と公民的分野を学ぶこととなります。そのため、現代史は3年生で学習することとなります。新学習指導要領でも重視しておりますので、きちんと指導してま

いりたいと思っております。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 公民的分野についてお聞きします。

公民的分野において、社会参画に関する学習の充実が求められておりますが、各教科書で工夫を凝らしている点はあるでしょうか。

○鈴木委員長 社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 各教科書とも身近な出来事についての事例が豊富に記載されていて、生徒の興味・関心を引く工夫がされています。また、写真やイラスト、資料なども多く用いられております。さらに、現代社会をとらえるための見方や考え方の基礎として、対立と合意、公正と効率といった概念が盛り込まれている事例も取り上げている教科書があります。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 質問ではないのですが、お願いでもよろしいでしょうか。

○鈴木委員長 はい、どうぞ。

○小泉委員 それでは、今の中学生は自己肯定感が大変低いと聞いております。そういった意味では、生徒自身が自分の問題としてとらえ、この公民的分野を学んでいく意味は大変大きいかと思えます。「公民」という言葉も、中学生になって初めて出てくる言葉で、各教科書でも学習を始める前にきちんと学ぶ意義を説明してあります。各学校でも、学習を進めるに当たって、ぜひ丁寧に指導していただきたいと願っております。

よろしく願いいたします。

○鈴木委員長 社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 承知いたしました。ありがとうございます。

○鈴木委員長 ほかに質疑ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 では、地図についてご質問がありましたらお願いします。

武石委員。

○武石委員 この地図は、地理的分野だけではなくて、すべての分野において活用していくということではないでしょうか。

○鈴木委員長 社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 この地図には、地名のほか自然、歴史や文化、産業等も記

載されています。地理的分野での活用が多いかとは思いますが、3年間の社会科の学習、または総合的な学習の時間等でも活用されます。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 では、その地理的分野の教科書と地図は、同一の出版社のほうが使いやすいのでしょうか。

○鈴木委員長 社会調査部会長。

○高岡社会調査部会長 2社ともに地理的分野の教科書と地図とも両方を扱っていますが、地図には地図としての活用方法があり、絶対に同一の出版社でなければならないということはないと考えます。

○鈴木委員長 ほかに質疑ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 なければ、次の数学に入ります。

数学の調査部会長、お願いします。

数学調査部会長。

○長野数学調査部会長 よろしくお願いします。数学です。

数学につきまして、各教科書とも生徒に親しみやすく構成をしています。日常生活に即した身近な題材を多く扱い、生徒の興味・関心を喚起する内容になっています。また、各教科書とも基礎・基本の定着に重点を置き、難易度順にするなど、繰り返し学習を行いやすく配列をしております。さらに、各教科書とも現行の教科書よりも字の読みやすさや図、表の色使いがよく、構成や表記の面でもよく工夫されています。例えば、ノートの使い方、書き方について説明されているものもあります。これは授業の受け方や、家庭学習を行うときに役立つと考えられます。

以上です。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いします。

小泉委員。

○小泉委員 本市では、各校に学習指導員を配置して、習熟の程度等に応じた少人数学習指導、これを実施しておりますが、これを生かせるような工夫が教科書に記載されておりますでしょうか。

○鈴木委員長 数学調査部会長。

○長野数学調査部会長 各教科書とも、少人数や個別に対応しやすいように工夫さ

れています。問題数を充実させたり、補充的な問題、発展的な問題を記載し、習熟度に応じて学習できるように工夫されています。

○鈴木委員長 私のほうから1点ですけれども、国や東京都の学力調査の結果を見ると、本市の子供、数学、算数については、小・中学校ともに数学的な考え方が弱いという傾向が見られるわけですが、この点については、本市だけのことではないと思われるわけですが、工夫していると思われる点が見られるでしょうか。

数学調査部会長。

○長野数学調査部会長 各社とも言語活動や体験的活動を積極的に取り入れていきます。挑戦するコーナーや実生活に生かすコーナーなどがあり、生徒が興味・関心を持ちやすくなるように工夫されています。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 反復学習によって、基礎、また基本の力の定着を図ることも大切であると思いますが、そのためにどのような工夫がされているのでしょうか。

○鈴木委員長 数学調査部会長。

○長野数学調査部会長 先ほどもお話ししましたが、個に応じた指導のための問題として、補充的な問題、発展的な問題に分けて掲載され、振り返りの学習に対応しています。各社とも練習問題が多く掲載されており、基礎・基本の定着については補充問題が載せられています。学習が終わった生徒が補充的な練習をする問題や、回答が巻末等に記載され、自分で答え合わせができるようになっている教科書もあります。

○鈴木委員長 ほかがございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 なければ、次の理科に入ります。

理科の調査部会長から説明をお願いいたします。

理科調査部会長。

○佐々木理科調査部会長 それでは、理科の調査・研究概要をお伝えします。

各出版社とも、いわゆる中1ギャップの対応を考えられておりました。例えば、小学校で学習したことを復習コーナーとしてそれぞれの単元の初めに設定しているとか、図版の扱い、それから文字の大きさ、色刷りなど、全体的にかなりの工夫をされていることがわかりました。

以上でございます。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いいたします。

土田委員。

○土田委員 学力の向上を図るために大切な基礎的、基本的事項の学習について、調査結果から顕著な点があれば説明してください。

○鈴木委員長 理科調査部会長。

○佐々木理科調査部会長 理科の学習指導要領では、第1分野、第2分野ともに観察や実験の結果を分析して解釈し、表現する能力を育てるということを目標の1つとしております。そこで、レポートの書き方、グラフの書き方について丁寧に説明しており、表現力の育成に効果的であることがわかりました。

また、身の回りの物質、化学変化と原子、分子、イオンなどについて理解させるという目標もございますが、これについては周期律表に身近な物品の写真を入れたり、原子や分子のモデルが切り抜きで扱えるようにつくってあったりして、理解を補助する工夫がございました。

以上でございます。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 実験や観察の大切さが叫ばれておりますけれども、教科書において実験や観察に重点を置いています、器具や設備を含めてですけれども、東大和市の実態と合っているのでしょうか。

○鈴木委員長 理科調査部会長。

○佐々木理科調査部会長 実験や観察は、生徒の主体的な活動の1つであります。その実験や観察の過程を大切にするように指導しております。本市は大変自然豊かな湖のある地域であります。観察等を行う環境としては申し分ございません。器具等につきましても、どの出版会社でも本市の学校で対応できることになっております。

以上です。

○鈴木委員長 ほかございませんか。

では、最後に私のほうからですけれども、理科の総括的な問題点になりますけれども、子供たちが理科離れということが叫ばれて久しいわけですが、小学校との関係もありますけれども、中学校では理科離れを解消させるために、教科書はどんな工夫をして編集されているというふうにお考えでしょうか。

理科調査部会長。

○佐々木理科調査部会長 現在使われている教科書までは1分野、2分野、上巻、下巻という4冊を3年間で使うようになっておりました。今回の改訂された教科書は、どの出版社も学年別、つまり1年生から3年生の学年別の3冊というふうになりました。第1学年で第2分野から第1分野の順になっている出版社のものや、第1分野、第2分野を交互に配列しているという出版社もあります。そういうことから、生徒の興味や関心を継続させることができるようになっております。以上です。

○鈴木委員長 理科についてはもうありませんか。
(発言する者なし)

○鈴木委員長 なければ、音楽に入ります。
音楽の調査部会長からご説明をいただきます。
音楽調査部会長。

○石井音楽調査部会長 それでは、音楽の調査結果についてお話しさせていただきます。

音楽の教科書については、器楽と一般、2種類の教科書があるわけですが、いずれの教科書も内容の選択のこと、あと構成・分量について、非常に適切に作成されております。イラストであるとか写真をうまく取り入れて、また大変親しみやすい曲を導入して、音楽に親しめる教科書にいずれもなっておりました。

以上でございます。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いいたします。
武石委員。

○武石委員 我が国や郷土の伝統音楽の指導については、和楽器に加えて我が国の伝統的な歌唱の表現活動を行うことになりました。その学習を充実させるための工夫はありますか。

○鈴木委員長 音楽調査部会長。

○石井音楽調査部会長 ある出版社では、世代を超えて受け継がれるように、季節感や難易度を考慮して配列してあります。また、イラストや写真で生徒の興味・関心がわくよう工夫されております。

以上です。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 音楽のよさや楽しさを感じさせたり、音楽と生活とのかかわりに関心を持たせたりするために、工夫しているところはありますか。

○鈴木委員長 音楽調査部会長。

○石井音楽調査部会長 中学生にとって親しみやすい曲を選択しております。例えば、歌謡曲のような曲も入っております。また、演奏家のその道に進むきっかけが記されているものもあり、生徒が身近に感ずるように工夫されております。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 鑑賞活動では、音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞することが大切であると考えます。また、自分なりに批評する力をつけることも大切な活動の1つかなと思いますが、この言語活動を取り入れた指導も、そのような意味においてぜひ工夫をしていただきたいと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。

○鈴木委員長 音楽調査部会長。

○石井音楽調査部会長 鑑賞教材では、その音楽の魅力を伝える紹介文を書かせる内容があります。また、自分の考えをまとめて発表する内容があったりもします。また、感じとったことを直接教科書に書き込みができるようにも工夫されております。教員が教科書を活用しながら、指導を工夫していく必要があると考えます。以上です。

○鈴木委員長 ほかに質疑ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 音楽がなければ、次の美術に入ります。

美術の調査部会長からご説明をいただきます。

美術調査部会長。

○半田美術調査部会長 それでは、美術科の説明をさせていただきます。

まず、各社共通の特徴として3点申し上げたいと思います。

まず1点目ですけれども、新学習指導要領への対応という点で、特に基礎・基本としての小・中連携した共通項目を重視している。

それから、2点目としまして生活の中の美術という視点の重視、特にデザイン分野において、各教科書とも重視しております。

それから、3点目としまして鑑賞分野の充実ということが上げられます。伝統文化、特に日本文化の理解、また言葉と美術、つまり言語能力との育成について

も光を当てているというのが特徴として上げられています。

以上でございます。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いいたします。

小泉委員。

○小泉委員 授業での教科書の活用の具合は、どのようになされておりますか。

○鈴木委員長 美術調査部会長。

○半田美術調査部会長 教科書の中身は、生徒の興味を引く題材、また写真、また作品をたくさん載せております。制作意欲をその都度かき立てる内容になっております。

また、授業の導入段階を初め、また各段階での教科書の活用が図られております。授業の中で使用するタイミング等を教員が工夫して活用し、また指導していくことが大事ではないかと思えます。

以上です。

○鈴木委員長 すみません、私のほうから1点ですが、教科書を見せていただくと鑑賞資料がかなり写真で載っていますけれども、2年生や3年生の修学旅行などの校外学習等で、こういう資料は活用しているわけでしょうか。

美術調査部会長。

○半田美術調査部会長 例えば、修学旅行に関しまして、仏像の手の表現とか、また顔の表情等から時代的な変遷、また造形的な特徴や、それに込められた思いを探る学習等がございます。また、建築物の特徴等も学ぶ学習が上げられます。そういった学習の上で、実物を見て学ぶということで、具体的には修学旅行等は貴重な体験となっております。

以上でございます。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 1社は2・3年生において上下と分かれていませんが、使い勝手はいかがですか。

○鈴木委員長 美術調査部会長。

○半田美術調査部会長 内容については、大きな違いはございません。したがって、特に使い勝手の面で問題ということはございません。

以上でございます。

○鈴木委員長 ほかに質疑ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 ないようですから、次の保健体育に進みます。

時間が少し押していますけれども、もう少しですから休憩なしで進行したいと思しますので、ご協力をお願いします。

保健体育の調査部会長からご説明をいただきます。

保健体育調査部会長。

○鈴木保健体育調査部会長 保健体育調査部会より報告をいたします。

各教科書とも、内容の選択、構成・分量、表記・表現及び使用上の便宜、各項目とも学習指導要領に対応した適切な内容となっており、大きな差は見られませんでした。しかし、各教科書とも視覚的な工夫で特徴を出しております。誌面の使い方、図、表の位置どり、大きさ、色の使い方等において差異が認められます。誌面の使いやすさの点で多少違いが見られます。しかし、指導内容では、各教科書とも同様の内容を扱っており、教科書ごとに指導内容での差はほとんどないといえます。

以上です。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いします。

武石委員。

○武石委員 各教科書とも、内容の選択では保健体育科の目標に沿った内容がよくまとめられていると報告されておりますが、教科書による内容選択では本当に差はないのでしょうか。

○鈴木委員長 保健体育調査部会長。

○鈴木保健体育調査部会長 4社の教科書を調査しましたが、内容的な差はほとんど見られませんでした。各教科書とも単元数は同一となっております。項目数で1から2項目の違いはありますが、学習内容は同一内容となっております。学習内容の点で差はないと思います。

以上でございます。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 各教科書とも構成・分量で特徴を出しているようにお見かけしましたが、特に特徴的なことがあればお聞かせください。

○鈴木委員長 保健体育調査部会長。

○鈴木保健体育調査部会長 平成24年度の新学習指導要領では、保健体育科の授業

は各学年105時間となり、現在より15時間ずつ各学年とも増加します。しかし、保健分野の授業時数は、3年間で48単位時間程度で、各学年では16時間程度となっています。そのような授業時数から考えると、簡潔でわかりやすい教科書が生徒にとっても負担が少なく学習しやすい、理解しやすい教科書だと思います。そのような観点から見ると、構成や分量で各教科書の特徴を出すことは難しいという現状にあります。

以上です。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 各社とも図だとか表、写真などが豊富ですけれども、指導時間との関連を考えるとどのくらいの分量が適切ですか。

○鈴木委員長 保健体育調査部会長。

○鈴木保健体育調査部会長 今お話ししましたように、保健分野の授業時数はおおむね週1時間と考えて、16週間ほどですので、1時間に見開き2ページから3ページぐらいを、余裕を持って説明できるような分量が望ましいと思います。各教科書とも、それらの要素を十分に満たしております。適切な分量がどのくらいかは、授業者によって変わってきますので一概には言えませんが、各教科書とも十分な分量で編集されております。

以上でございます。

○鈴木委員長 保健体育について、ほかにございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 ないようですから、次の技術・家庭に入ります。

技術・家庭の調査部会長からご説明をいただきます。

技術・家庭調査部会長。

○齊藤技術・家庭調査部会長 技術・家庭調査部です。

各会社とも日常生活に関連した内容が多く取り上げられており、生徒の興味・関心が高まる内容になっております。また、写真、イラスト、マークを多く取り入れて、大変わかりやすく掲載されております。

以上です。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いいたします。

小泉委員。

○小泉委員 男女の共修という観点からは、教科書にはどのような工夫がなされて

おりますでしょうか。

○鈴木委員長 技術・家庭調査部会長。

○齊藤技術・家庭調査部会長 いずれの教科書も、男子だから、女子だからという表現はございません。また、記載されている写真やイラストなども男女が偏りなく登場しております。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 技術分野と家庭分野とでは、同じ教科書のほうが扱いやすいのでしょうか。

○鈴木委員長 技術・家庭調査部会長。

○齊藤技術・家庭調査部会長 表記・表現等は同じ教科書のほうが統一されて、生徒は使いやすい面もあるかと思いますが、どの出版社も内容や表記等に工夫されておりますので、違う会社であっても全く問題はございません。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 家族のきずな、これから家族や地域を支える一員として考えることは大変重要なことであると考えます。家庭分野の教科書で、どのように扱われていますか。

○鈴木委員長 技術・家庭調査部会長。

○齊藤技術・家庭調査部会長 いずれの教科書も、家族、家庭と子供の成長という内容で家族や家庭の大切さ、家庭生活と地域とのかかわり、家族関係について学習を進めています。その他の単元との関連も図って、題材が設定されております。

○鈴木委員長 私のほうから1点ですけれども、技術分野で指導の順序や時期については考える必要はないのでしょうか。

技術・家庭調査部会長。

○齊藤技術・家庭調査部会長 中学校で学習する数学や理科など、他教科の学習内容も、技術分野の学習を進める際に大きな影響を与えます。したがって、資料の順序や時期をあらかじめしっかり検討していくことは大事であると考えております。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 技術分野も家庭分野も、新たに必須となった内容があるかと思いますが、それらの内容に関しては備品や施設、設備等は十分対応できるものでしょうか。

○鈴木委員長 技術・家庭調査部会長。

○齊藤技術・家庭調査部会長 技術分野では、生物育成に関する技術、情報に関する技術におけるプログラムによる計測、制御が必修となっています。それに関する備品や安全作業に必要な備品等につきましては、整備されているかをしっかりと確認していきます。

また、家庭分野では、ミシンの整備状況もそうですが、幼稚園などとの連携も必要となることから、しっかり対応してまいります。

○鈴木委員長 ほかに質疑ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 なければ、次の外国語、英語に入ります。

英語の調査部会長からご説明をお願いいたします。

英語調査部会長。

○水越英語調査部会長 英語について説明いたします。

教科書を調査したところ、各教科書に特徴があり、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、また授業時数が増えることを考慮し、内容が取り扱われておりました。題材が多岐にわたっている、会話表現が多い、内容が理解しやすい、文字が大きく見やすい、文法表現がわかりやすいなど、各教科書とも使いやすいように工夫されておりました。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いします。

小泉委員。

○小泉委員 内容の選択に、日本文化の理解、また世界の文化、習慣の言及とありますが、英語を学習していく上でどのような効果があるとお考えでしょうか。

○鈴木委員長 英語調査部会長。

○水越英語調査部会長 英語を学習していく上で、極めて重要な内容です。自国文化を英語で理解することは、英語への興味・関心を深めるとともに、知識を高めることに効果的です。また、国際理解教育の推進の視点からも効果的であります。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 今年度から小学校では外国語活動が始まっています。御存じだと思いますが。コミュニケーションへの積極的な態度などの状況を把握した上で指導することが大切だと思いますが、そのあたりはどうでしょうか。

○鈴木委員長 英語調査部会長。

○水越英語調査部会長 各教科書とも小学校での外国語活動を踏まえた構成となっております。初めはあいさつから始まるなど、コミュニケーションを図るものや、身の回りにある英単語から入っている教科書が多くありました。教員も小・中連携したカリキュラムを作成していく必要があります。

○鈴木委員長 私のほうから、ただいまのことについて関連で1点ですけれども、会話中心のような練習がされているように見えるわけですがけれども、読む力や書く力というのは、これはまたとても大切なものだと思いますけれども、その点の学力をつける点についてはいかがでしょうか。

英語調査部会長。

○水越英語調査部会長 話す、聞く、読む、書くの4技能をバランスよく育成することが目標です。1時間の中、もしくは1つの单元の中で、4技能を均等に育成するというものではありません。3年間を通し、あるいは各学年を通して、育成する技能に偏りがいないか、系統的な指導となっているか、点検することが大切になってまいります。

○鈴木委員長 ほかに英語について、ご質疑ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 なければ、次に特別支援学級用教科書に入りますが、小学校特別支援学級用教科書の調査部会長からご説明をいただきます。

小学校特別支援学級用教科書調査部会長。

○吉田小学校特別支援学級用教科書調査部会長 特別支援学級用教科書調査部会では、多摩教育センター内にある教育センター、教育情報室、教科書展示室で教科用図書調査・研究を行いました。

第三小学校、第九小学校ともに、特別支援学級用様式1－3、一覧表の米印が今年度新しく調査・研究した教科書です。第三小学校では3冊、第九小学校では6冊の教科書を調査・研究しました。

採択替えの理由として、どの教科書も児童の能力及び興味・関心などの実態を考慮し、一人一人に合った教科書を使用したいためです。

教科書の特徴として、初めに児童の興味・関心を引きやすいように工夫されております。例えば、挿絵がわかりやすくユーモアがあったり、動物、魚やお店など、児童の身近なものや、児童の日常と重なっているものを取り扱っていることなどがあります。

また、学習内容を理解しやすいように、絵や写真が豊富に使われていたり、漢字には平仮名が振ってあるなどの工夫もされています。教科書によっては、図鑑のような豊富な内容のものが多いことも特徴です。紙質、装丁などがしっかりしていて、大きさも児童が扱いやすいものも特徴の1つとなっております。

以上です。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いいたします。

小泉委員。

○小泉委員 今年度も採択替えの教科書が多いようで、また学校間で採択替え教科書の冊数に差があるようですが、これはどのような理由からでしょうか。

○鈴木委員長 小学校特別支援学級用教科書調査部会長。

○吉田小学校特別支援学級用教科書調査部会長 特別支援学級の児童の能力や興味・関心などは個人差が非常に大きく、これまで使用している教科書をそのまま次年度の児童が使用することは、児童の実態から適さないことがあります。

○鈴木委員長 ほかにいかがですか。

では、私から1点ですが、これ教科書採択、決定しておいても、絶版になることが時々出てくると思うんですが、そのようなときの対応はいかがになりますでしょうか。

小学校特別支援学級用教科書調査部会長。

○吉田小学校特別支援学級用教科書調査部会長 同じ種目の中の異なる教科書でも対応は可能です。

○鈴木委員長 ほかなければ、次の中学校特別支援学級用教科書に入ります。

中学校特別支援学級用教科書の調査部会長からご説明をいただきます。

中学校特別支援学級用教科書調査部会長。

○曾根中学校特別支援学級用教科書調査部会長 では、ご説明いたします。

中学校特別支援学級用教科書の能力、それから興味・関心、それから教科内容のバランス、構成等を見て、様式3の一覧表の米印のところ、今年度新しく調査・研究した教科書であります。1つ1つ内容について説明させていただきます。

1つは、社会科です。社会科につきましては、歴史分野のバランスというか、その辺が補うところがなかったものですから、「日本の歴史」というものを採用させていただきました。

それから、次に理科です。理科は、宇宙分野について、天文分野がやはりない

ものですから、その図鑑のところの「宇宙」という教科書を採択替えさせていただきたいと思います。

それから、次の美術分野なんですけれども、これはいろいろ多摩教育センターで調査・研究したんですけれども、検定教科書、3社がバランスの関係で優れているということで、3社のうち1社の検定教科書を採用させていただければと思います。ただし、「美術1」というところでよろしいかと思いますので、よろしくをお願いします。

それから、英語についても、1番、2番というのがあるんですけれども、これについても見開きのページの構成であるとか、そういうので2冊採択替えさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○鈴木委員長 ただいまの説明につきまして、質疑をお願いいたします。

武石委員。

○武石委員 中学校では、各教科により習熟度の個人差が大変大きいと思いますけれども、教科書採択の際はどのような点に配慮されているのでしょうか。

○鈴木委員長 中学校特別支援学級用教科書調査部会長。

○曾根中学校特別支援学級用教科書調査部会長 まず小学校での既習事項の復習につながる内容、構成があるか、次に基礎的、基本的な内容が重視されていて、繰り返し反復できるものか、そして応用的、発展的課題も適量で配列されているかどうか、以上、3つの視点を大切にして採択していきます。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 今年度、採択替えをする教科書が幾つかありますが、どのような理由からですか。

○鈴木委員長 中学校特別支援学級用教科書調査部会長。

○曾根中学校特別支援学級用教科書調査部会長 やはり個人差が大きいので、より個人差に対応したものを選んでいきます。また、先に述べましたが、今回は応用的、発展的な課題もあるかどうかで採択をしております。

○鈴木委員長 ほかに質疑ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 これで各種目ごとの概要と調査・研究資料の報告等についての説明と質疑について終わります。

次に、市民の方々や学校からの意見の提出について、中学校教科書採択資料作

成会議座長から、ご説明をお願いいたします。

中学校教科書採択資料作成会議座長。

○佐々木中学校教科書採択資料作成会議座長 去る6月15日号の市報におきまして市民に広報した上で、6月17日から7月6日にかけて、当市にあります教育情報室において、市民の方を対象に教科書の法定展示会を開催いたしました。その折に、ご意見を賜るためのアンケート形式の用紙を用意しておりました。ご意見は、14名の方から62点をいただきました。

内容といたしましては、教科書の内容に関するものが22点、構成や分量に関するものが10点、表記や表現に関するものが14点、その他のご意見が16点となっております。

これらのご意見につきましては、7月15日に教育長職務代理者に提出いたしました報告書に添付してご報告させていただきました。

また、学校からの意見も募りましたが、ございませんでした。

以上です。

○鈴木委員長 このことについて、質疑をお願いします。

何かございますか。

小泉委員。

○小泉委員 これは質問ではありませんが、先ほどのご説明で、多くの市民の皆さんが教科書の採択に関して関心を持っていらっしゃるということがとてもよくわかりました。すべてのご意見に目を通させていただきました。本市の子供たちのための貴重なご意見は、採択の参考にさせていただきます。

大変ありがとうございました。

○鈴木委員長 ほかがございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 では、これをもちまして中学校教科書採択資料作成会議及び小・中学校特別支援学級用教科書採択資料作成会議からの報告についての質疑を終了いたします。

なお、この後、午後の教育委員会において、報告及び質疑の内容等を参考として協議し、採択を行いたいと思います。

各採択資料作成会議委員の皆さん、本日は大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

どうぞご退席ください。

(委員退室)

○鈴木委員長 それでは、審議を継続いたします。

午後に教科書の具体的な審議と決定を行う予定ではありますが、ここで事務局より教科書採択にかかわる基本的な考え方及び採択基準、規準及び基準について確認をしたいと思います。

指導室長、お願いします。

指導室長。

○今城学校教育部参事兼指導室長 それでは、初めに採択にかかわる基本的な考えを読み上げます。

平成24年度使用東大和市立中学校用教科書、小・中学校特別支援学級用教科書の採択に当たり、日本国憲法、教育基本法等の精神、東京都教育委員会並びに東大和市教育委員会教育目標及び基本方針にのっとり、東大和市立小・中学校使用教科用図書採択要綱及び東大和市立中学校教科用図書採択事務要領、東大和市立小・中学校特別支援学級用教科用図書採択事務要領に基づいて、公正で適正かつ円滑な採択を実施するとともに、東大和市の実態等を踏まえた採択を厳正に行う。

そして、採択の方向としては、次のことを基本的に踏まえて実施することいたします。

- 1、豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。
- 2、自ら学び、自ら考える力を育成すること。
- 3、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること。
- 4、各学校が創意工夫を生かし、特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること。

次に、採択規準、これは採択規準であります。採択規準の視点について確認をいたします。

1、公正な内容で適切な教育的配慮が施されたものであること。児童・生徒自らの主体的な学習が重視される中、一面的な見解に偏らず、公正な内容で発達段階に即したものであること。

2、基礎・基本の確実な習得を助けるものであること。枝葉末節の知識を扱うものでなく、学習指導要領に定める教科の内容等に基づき、その後の学習や生活

に必要であること。また、真に継承すべき内容であること。

3、学び方・考え方の習得が図られるものであること。知識・技能の詰め込みに陥ることなく、何を学ばばいいのか、いかにして学ぶのか、これらが児童・生徒にしっかり認識され、自ら学習の方法を工夫し、考えさせるきっかけとなり、またそれらを助けるものとなっていること。

4、児童・生徒にとってわかりやすく、丁寧なものであること。教科書が学習の確かなよりどころとなり、主体的に学習する意欲を高めるものとなるために、よりわかりやすく、より丁寧で、児童・生徒の思考過程や感性に合ったものであること。

5、心に響く美しいものであること。豊かな人間性などを育成するものとなるよう、より心に響く教材、美しい表現であること。また、写真、挿絵、図表等も豊かな感性を育てる上で重要であり、学習効果などの観点に配慮しつつ、発達段階に応じて積極的な工夫があること。

6、知識・技能が生活において生かされるよう配慮されていること。習得した知識・技能が実生活において生かされ、総合的に働くよう、取り上げる事例や教材を身近な例に求めたり、その内容が実生活を見直し、活用できるものとなるような工夫を図っていること。

続きまして、採択基準、これは採択基準であります。採択基準の観点について確認をいたします。

1、内容の選択はどうであるか。2、構成・分量はどのようになっているか。3、表記・表現及び使用上の便宜はどうであるか。4、そのほか教科の特性に基づき、特に調査・研究が必要な事項について。

以上でございます。

○鈴木委員長 ただいま事務局より、採択にかかわる基本的な考え方及び採択規準及び採択基準等について確認のための説明がありました。

それでは、資料に示された基本的な考え及び採択規準及び採択基準等を踏まえ、午後に具体的な審議を行ってまいります。

ここで午後1時30分まで休憩とします。

お疲れさまでした。

午前11時05分休憩

午後 1時30分再開

○鈴木委員長 それでは、午前に引き続き、平成24年度使用東大和市立中学校及び小・中学校特別支援学級用の教科書の採択にかかわる審議を再開いたします。

今後の審議につきまして、事務局から説明をお願いします。

指導室長。

○今城学校教育部参事兼指導室長 それでは、午後の審議につきましては、平成24年度使用東大和市立中学校及び小・中学校特別支援学級用の教科書について、ご審議と採択の決定をお願いいたします。

なお、採択の決定につきましては各種目ごとに、例えば国語なら国語のご審議をいただいたところで直ちに採択の決定を行い、会の進行を効率的に進めたいと考えております。

以上でございます。

○鈴木委員長 ただいまの事務局よりの本日の審議予定について提案がありましたが、これでいかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○鈴木委員長 異議なしと認めまして、これより各種目ごとの教科書の審議と採択の決定に入ります。

よろしくをお願いします。

まず、国語について審議します。

では、ご意見のある方、お願いします。

土田委員。

○土田委員 私は、三省堂を推します。音読や暗唱教材が豊富である点が優れていると思います。また、市民の意見にもありましたが、古典を重視している点がよいと思います。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私も同じく三省堂を推します。別冊になっている「国語の学びを広げる」の資料編が大変使いやすいと思います。また、個に応じて発展的に扱えると思います。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 私も三省堂を推します。学習のねらいや学習の過程が明確に示されており、生徒が見通しを持って主体的に学習できると思います。自己評価

もできるようになっている点が優れていると思います。

○鈴木委員長 私は教育出版を推します。各学年の教科書の表紙に出ている伝え合
うということは、国語教育の大きな目標であって、編集の趣旨が伝わってくるよ
うに思いました。

ほかにご意見ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 それでは、意見は出尽くしたものとして、国語の採択を決定したい
と思います。

採決に当たりましては、全種目とも各教科書会社名を目録順に読み上げますの
で、採択に適すると判断する教科書会社に挙手をお願いします。

では、国語。

東京書籍。

学校図書。

三省堂。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 教育出版。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 光村図書出版。

採決の結果、三省堂が3票、教育出版が1票となりました。

国語については、三省堂に決定します。

次に、国語の書写について審議します。

ご意見のある方から願います。

小泉委員。

○小泉委員 私は東京書籍を推します。2冊に分かれていて、日常生活で使う場面
が多く載っているところが優れていると思います。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私は学校図書を推します。3年間の学習を1冊にまとめている点がい
いです。また、各課題が精選されていて、子供たちにも扱いやすいと思います。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私も学校図書を推します。実用的で、課題設定がはっきりしていてよ
いと思います。

○鈴木委員長 私も学校図書です。見開きのページの写真は、生徒の興味を引く工夫がなされていて大変よいと思いました。

ご意見ほかにございますか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 それでは、意見は出尽くしたのものとして、書写の採択を決定いたします。

東京書籍。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 1票です。

大日本図書、0票です。

学校図書。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 3票です。

三省堂、0票です。

教育出版、0票です。

光村図書出版、0票です。

採決の結果、東京書籍が1票、学校図書が3票となりました。

書写については、学校図書に決定します。

次に、社会の地理的分野について審議します。

ご意見のある方からお願いします。

土田委員。

○土田委員 私は東京書籍を推します。何といたっても生徒にとってわかりやすさが大切です。内容面でも、構成でもわかりやすくなっています。

以上です。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私は教育出版を推します。各小单元にある「トライ」は、学び方を身につけ、考察する力をつけるために有効だと思います。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 私も教育出版がいいと思います。紙質がよいのか、地図や表が大変見やすく、わかりやすくてとてもいいと思います。

○鈴木委員長 私も教育出版です。編集の基本方針が明確に出ていると思いました。

生徒も扱いやすい教科書だと思います。

ほかございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 意見が出尽くしたものと見て、社会地理的分野の採択を決定いたします。

社会地理的分野。

東京書籍。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 1票です。

教育出版。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 3票です。

帝国書院、0票です。

日本文教出版、0票です。

採決の結果、東京書籍が1票、教育出版が3票となりました。

社会地理的分野については、教育出版に決定します。

次に、社会歴史的分野について審議します。

ご意見のある方、どうぞ。

土田委員。

○土田委員 私は帝国書院を推します。戦争の悲惨さや原因等の追及もきちんと述べられています。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私は教育出版がいいと思います。まとめの部分では、ワークシート方式となっており、生徒も扱いやすいと思います。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 私も教育出版がいいと思います。内容の記述が豊富であったり、地図などの資料が豊富であったり、わかりやすくなっています。

○鈴木委員長 私も教育出版です。身近でわかりやすいということと、学び方や考え方について学習しやすいと、調査書の報告の内容はとても大切なことだと思います。

ほかにつけ足し、ご意見ありませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 意見が出尽くしたものと見て、ここで社会歴史的分野の採択を決定します。

では、社会歴史的分野の採決。

東京書籍、0票です。

教育出版。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 3票です。

清水書院、0票です。

帝国書院。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 1票です。

日本文教出版、0票です。

自由社、0票です。

育鵬社、0票です。

採決の結果、教育出版が3票、帝国書院が1票となりました。

社会歴史的分野については、教育出版に決定します。

次に、社会公民的分野について審議します。

ご意見をお願いします。

土田委員。

○土田委員 私は東京書籍を推します。学習したことをレポートや新聞にまとめる活動例が詳しく書かれています。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私も同じく東京書籍を推します。とにかく資料が豊富で見やすい点がいいですし、課題解決学習がしやすいと思います。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 私は教育出版がいいと思います。市民の方からの意見にもありましたが、自分たちの生活と政治がどのようにかかわっているか、これから社会生活を営む上で必要なことがしっかり書かれていると思います。

○鈴木委員長 私も小泉委員と同じく教育出版です。現代的な課題も数多く取り上げられていて、身近でわかりやすいのではないかと思います。

ほかにつけ足し意見がありましたらお願いします。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 意見が出尽くしたものとして、ここで社会公民的分野の採択をいたします。

社会公民的分野。

東京書籍。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 2票。

教育出版。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 2票。

清水書院、0票です。

帝国書院、0票です。

日本文教出版、0票。

自由社、0票。

育鵬社、0票です。

採決の結果、東京書籍が2票、教育出版が2票となりました。

2票と2票で同票ですが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第3項の定めにより、可否同数のときは委員長の決するところにあると示されてありますので、社会公民的分野については委員長である私も推しました教育出版に決定させていただきます。

よろしいですね。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 次に、社会の地図について審議します。

ご意見をどうぞ。

小泉委員。

○小泉委員 私は帝国書院を推します。報告書にもありますが、地図の中に歴史的
事象も載せられています。地理的分野以外での活用も大いに期待できます。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私も同じく帝国書院がいいと思います。資料が豊富ですし、産業や自然などいろいろな情報が記載されています。情報量と見やすさは大切なことだと

思います。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私も帝国書院です。生徒が学習しやすいと思います。

○鈴木委員長 私も帝国書院を推します。ワイド版で図版が大きく、3年間子供たちが使うのに適していると思いました。

ほかにご意見ありませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 意見が出尽くしたものとして、ここで社会の地図の採択をいたします。

地図の採決を行います。

東京書籍、0票です。

帝国書院。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 4票です。

採決の結果、帝国書院が4票となりました。

地図については、帝国書院に決定します。

次に、数学について審議します。

ご意見をどうぞ。

小泉委員。

○小泉委員 私は東京書籍を推します。「もっと練習」、「ちゃんと確認」は、報告書にあるとおり確かに基礎学力を定着するのに効果的だと考えます。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私も同じく東京書籍がいいと思います。やはり基礎的、基本的な力をつけさせることが一番大切だと思いますし、必ず復習する内容が各単元に位置づけられている点は優れていると思います。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私は新興出版社啓林館を推します。報告書にあるように、「数学の広場」では、数学を活用する課題や身近な題材で考える力を伸ばせると思います。また、練習問題のバリエーションが豊富であるのがよいと思います。

○鈴木委員長 私は東京書籍です。基礎ももちろん大切ですが、東大和の子供たちには、数学的な思考を促す内容が充実していると考えましたので、その点

で東京書籍を推します。

ほかにご意見ありましたらお願いします。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 ここで数学の採択を決定します。

採決を行います。

東京書籍。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 3票。

大日本図書、0票。

学校図書、0票。

教育出版、0票。

新興出版社啓林館。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 1票。

数研出版、0票。

日本文教出版、0票。

採決の結果、東京書籍が3票、新興出版社啓林館が1票となり、数学については東京書籍に決定します。

続いて、理科について審議します。

武石委員。

○武石委員 私は大日本図書を推します。単元末問題が復習として最適であると思います。また、基礎的な力をつける上で重要であると思います。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 私も大日本図書を推します。写真やイラストが豊富に掲載されていて、臨場感を持って学習することができると思います。各単元とも科学的な見方や考え方が培われるようになっており、また既習事項の振り返りにも工夫が見られると思います。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私も大日本図書を推します。学習のしやすさ、わかりやすさという点では大変優れています。実験の方法やまとめ方についてもよく整理され、丁寧に記述されていると思います。

○鈴木委員長 私も皆さんと同様に大日本図書です。

ほかにご意見ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 それでは、理科の採決を行います。

東京書籍、0票です。

大日本図書。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 4票です。

学校図書、0票です。

教育出版、0票です。

新興出版社啓林館、0票です。

採決の結果、大日本図書が4票となりました。

理科については、大日本図書に決定いたします。

次に、音楽一般について審議します。

ご意見をどうぞ。

小泉委員。

○小泉委員 私は教育芸術社がいいと思います。小学校の学習をゲーム感覚で復習するページは、中学1年生にとっては授業に入りやすいのではないかと思います。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私は教育出版がいいと思います。教育出版の選曲は親しみやすく、生徒への音楽のよさを伝えられる教材となっていると思います。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私は教育芸術社です。鑑賞教材では、楽曲の様子が見えるよう資料が充実しています。日本の伝統音楽についても詳しく載っています。

○鈴木委員長 私も教育芸術社です。写真やイラストが見やすく、わかりやすいのが特徴かと思いました。また、説明も色使いがよく、具体的でわかりやすく工夫をされていると思いました。

ご意見ほかにありますか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 意見が出尽くしたものとして、ここで音楽一般の採決を決定します。採決を行います。

教育出版。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 1票です。

教育芸術社。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 3票です。

採決の結果、教育出版が1票、教育芸術社が3票となりました。

音楽一般については、教育芸術社に決定いたします。

次に、音楽の器楽合奏について審議いたします。

ご意見をどうぞ。

小泉委員。

○小泉委員 私は教育芸術社がいいと思います。表紙の裏の演奏家の紹介が目を引きます。これから器楽について学習するに当たり、その導入に適していると思います。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私は教育出版がいいと思います。歌謡曲も入っていて親しみやすく、生徒の興味・関心が高まると思います。また、楽譜が見やすいのも特徴的だと思います。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私は教育芸術社を推します。報告書にあるように、各楽器の演奏方法が写真やイラストを使って大変わかりやすく載っているからです。

○鈴木委員長 私も教育芸術社を推します。裏表紙の「日本の伝統音楽の楽器編成」、大変わかりやすく、これは音楽だけではなくて他教科との関連も深められるようにできていると思いました。

ほかにご意見ありましたらお願いします。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 それでは、音楽、器楽合奏の採択を決定いたします。

音楽、器楽合奏。

教育出版。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 1票。

教育芸術社。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 3票です。

採決の結果、教育出版が1票、教育芸術社が3票となりました。

音楽、器楽合奏については、教育芸術社に決定いたします。

続いて、美術について審議いたします。

ご意見のある方からどうぞ。

土田委員。

○土田委員 私は光村図書出版を推します。とにかく写真がきれいで目を引きます。

その中にも生徒作品が多く掲載されていて、制作意欲もわくと思います。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 私は開隆堂出版を推したいと思います。日常生活とかかわりがある題材が多く、また作品の例示も豊富です。生徒の関心を引き出しやすいかと思います。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私は光村図書出版がいいと思います。やはり写真やイラストが大変きれいですし、美術史年表などは資料としても大変充実していると思います。

○鈴木委員長 私も光村図書出版です。2・3年生の上の巻頭の投げかけが印象的でした。また、谷川俊太郎の詩や阿修羅像の大きな写真は、子供たちの心を揺さぶるのではないかと思います。日本の伝統を扱った教材も充実しているように思いました。

ご意見、つけ足しございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 では、意見が出尽くしたものと見て、美術の採択を決定いたします。美術の採決を行います。

開隆堂出版。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 1票です。

光村図書出版。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 3票です。

日本文教出版、0票です。

採決の結果、開隆堂出版が1票、光村図書出版が3票となりました。

美術については、光村図書出版に決定いたします。

次に、保健体育について審議いたします。

ご意見のある方からどうぞ。

武石委員。

○武石委員 私は東京書籍がいいと思います。イラストや写真が豊富で、学習内容をイメージしやすいと思います。

○鈴木委員長 小泉委員。

○小泉委員 私も東京書籍を推します。知識の習得だけでなく、「考えてみよう」などで主体的に課題を解決できるよう構成されていると思います。小学校の保健学習の上に内容が構成されている点も適切だと考えます。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私も東京書籍がいいと思います。章末の確認問題が復習に適していると思います。

○鈴木委員長 私も皆さんと同様に東京書籍を推します。喫煙の害や薬物乱用の害、現代的な問題について丁寧に取り扱われていると思いました。

ほかにご意見ありませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 それでは、保健体育の採択を決定いたします。

保健体育の採決。

東京書籍。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 4票です。

大日本図書、0票です。

大修館書店、0票です。

学研教育みらい、0票です。

採決の結果、東京書籍が4票です。

保健体育については、東京書籍に決定いたします。

次に、技術・家庭科の技術分野について審議いたします。

ご意見どうぞ。

小泉委員。

○小泉委員 私は東京書籍を推します。基礎技能のページが充実しています。写真が掲載され、丁寧に、そして詳しく説明がされていてわかりやすいと思います。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私も同じく東京書籍がいいと思います。実例集が豊富で、一つ一つの制作過程が大変詳しいので、見通しを持って学習しやすいと思います。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私も東京書籍を推します。技術分野では初めて知る難しい用語もあるかと思います。基本的な用語が理解しやすいように工夫されています。

○鈴木委員長 私も皆さんと同様の理由で東京書籍を推します。

ほかにご意見ありましたらどうぞ。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 意見が出尽くしたものとして、ここで技術・家庭、技術分野の採択を決定したいと思います。

技術・家庭、技術分野の採決。

東京書籍。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 4票です。

教育図書、0票です。

開隆堂出版、0票です。

採決の結果、東京書籍が4票となりました。

技術・家庭、技術分野については東京書籍に決定いたします。

続いて、技術・家庭、家庭分野について審議いたします。

ご意見どうぞ。

小泉委員。

○小泉委員 私は教育図書を推します。家庭や家族のことについてしっかりと扱っている印象を受けました。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私は東京書籍を推します。单元ごとに目標が記載されていて、学習の目当てを持ちながら見通しを持って取り組めると思います。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私も東京書籍がいいと思います。やはり基礎技能のページが大変わかりやすいです。安全にも配慮した記載もあり、充実しています。

○鈴木委員長 私も東京書籍を推します。身近な視点から今日的な課題等々、さまざまな工夫がなされていると思いました。

ほかにご意見ございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 意見が出尽くしたものと見て、技術・家庭、家庭分野の採択を決定したいと思います。

採決を行います。

東京書籍。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 3票です。

教育図書。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 1票です。

開隆堂出版、0票です。

採決の結果、東京書籍が3票、教育図書が1票となりました。

技術・家庭科、家庭分野については東京書籍に決定いたします。

次に、外国語、英語について審議いたします。

ご意見のある方からどうぞ。

小泉委員。

○小泉委員 私は学校図書を推したいと思います。報告書にもありますが、レッスンの合間にさまざまな活動を取り入れ、学習に興味を持たせています。また、教科書へ直接書き込みができるような工夫もなされています。

○鈴木委員長 武石委員。

○武石委員 私も同じく学校図書がいいと思います。付録も充実していますし、4技能が学年を通して学べるようになってきていると思います。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私も学校図書を推します。1年生では、小学校の外国語活動の上にあるわけですが、コミュニケーション活動も豊富で英語学習に入りやすいと思います。また、分量的にも多過ぎず学習しやすいと思います。

○鈴木委員長 私も学校図書を推します。英語の学習では、子供同士、ペアやグループでの学習が多くなってくるのではないかと思います。その意味で、学校図書の教科書は工夫が多いように見受けました。教える側の先生方にとっても、扱いやすいのではないかと思います。

ほかご意見ありませんでしょうか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 意見は出尽くしたものと思います。

外国語、英語の採択を決定します。

外国語、英語の採決を行います。

東京書籍、0票です。

開隆堂出版、0票です。

学校図書。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 4票です。

三省堂、0票です。

教育出版、0票です。

光村図書出版、0票です。

英語の採決の結果、学校図書が4票となりました。

外国語、英語については学校図書に決定いたします。

続いて、特別支援学級用の教科書について審議をお願いします。

なお、特別支援学級用教科書につきましては、学校教育法附則第9条の定めによる教科書について、特に支障があり、これより明らかに優れたものである場合において、採択替えを行うとしてあります。

午前の特別支援学級用教科書採択資料作成会議座長の説明にもありましたとおり、小学校が新たに9点、中学校が新たに5点の教科書の採択の資料が提出されております。

ご審議をお願いします。

小泉委員。

○小泉委員 資料作成会議からの報告がありましたが、それぞれ児童や生徒の実態や学校現場の様子から考えて、実際に教えている現場の教員が調査・研究をして報告を上げてきておりますから、この調査研究結果のものを採択してよいと考え

ますが、いかがでしょうか。

○鈴木委員長 ほかにございませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 ないようですから、特別支援学級用教科書については、小学校、中学校から新たに提出された教科書と従来の教科書を一括して採択いたします。

それでは、特別支援学級用教科書について、賛成の方、挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

○鈴木委員長 ありがとうございます。

全委員の方々が賛成であります。

では、特別支援学級用教科書については、提出された資料のとおり決定いたします。

最後に、もう一度、今まで採択を決定した教科書について確認をいたします。

統括指導主事、確認をお願いします。

○岡田統括指導主事 それでは、種目ごとに確認をさせていただきます。

国語は、三省堂 3 票、教育出版 1 票で、三省堂が採択されました。

書写は、東京書籍 1 票、学校図書 3 票で、学校図書が採択されました。

社会、地理的分野、東京書籍 1 票、教育出版 3 票で、教育出版が採択されました。

社会、歴史的分野、教育出版が 3 票、帝国書院が 1 票で、教育出版が採択されました。

続いて、社会、公民的分野は、東京書籍 2 票、教育出版 2 票、同数ですが、教育委員長の決議で教育出版が採択されました。

地図、帝国書院 4 票で、帝国書院が採択されました。

数学は、東京書籍 3 票、新興出版社啓林館が 1 票で、東京書籍が採択されました。

理科は、大日本図書 4 票で、大日本図書が採択されました。

音楽、一般は、教育出版が 1 票、教育芸術社 3 票で、教育芸術社が採択されました。

音楽、器楽合奏は、教育出版 1 票、教育芸術社 3 票で、教育芸術社が採択されました。

美術は、開隆堂出版 1 票、光村図書出版 3 票で、光村図書出版が採択されまし

た。

保健体育は、東京書籍 4 票で、東京書籍が採択されました。

技術・家庭、技術分野、東京書籍が 4 票で、東京書籍が採択されました。

技術・家庭、家庭分野は、東京書籍 3 票、教育図書 1 票で、東京書籍が採択されました。

外国語、英語は、学校図書が 4 票で、学校図書が採択されました。

また、小・中学校特別支援学級用教科書につきましては、調査・研究資料に上げられている図書を教科書として採択することになりました。

以上でございます。

○鈴木委員長 教科書の採択は以上でございますが、委員の方々、特にご意見がありますか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 では、これをもちまして、日程第 3、第 23 号議案 平成 24 年度使用東大和市立中学校用教科書の採択について、日程第 4、第 24 号議案 平成 24 年度使用東大和市立小・中学校特別支援学級用教科書の採択についてを終了いたします。

ここで 10 分間休憩とします。

午後 2 時 19 分休憩

午後 2 時 27 分再開

○鈴木委員長 それでは、再開いたします。

◎日程第 5 その他報告事項

○鈴木委員長 日程第 5、その他報告事項を行います。

平成 22 年度東大和市学校給食会計決算の報告について、本件の報告をお願いいたします。

○小島教育長職務代理者学校教育部長 その他報告といたしまして、平成 22 年度の東大和市学校給食会計の決算につきまして、主な内容をご報告させていただきます。

平成 22 年度東大和市学校給食会計につきましては、お手元に配付させていただきました決算書に基づき、去る 7 月 14 日、平成 23 年度第 1 回学校給食センター運

営委員会におきまして承認されております。

特に質疑はございませんでした。

平成22年度の決算の特徴といたしましては、繰越金が、平成21年度からの繰越金、約560万円に対し、平成23年度への繰越金はおよそ936万円となり、370万円強の増額となりました。主な理由は、22年度は4月から6月ごろに天候不順から野菜の高騰があり、給食会計を圧迫いたしました。また、9月以降も猛暑の影響で野菜が不作となり、価格が高どまりいたしました。こうしたことから、給食会計を圧迫せず、かつ栄養価も低下しないよう食材をなるべく安く調達する努力をいたしました。さらに、献立作成時期が給食費の引き落とし時期より2箇月も早いため、収入もどの程度見込めるか不透明であり、支出を低く抑え続けた結果、この額となったものでございます。

もう1点、給食費の平成22年度現年度分の収入率は、昨年度より0.2ポイント低い99.1%となりました。また、過年度分を含めました収入率は98.6%で、対前年度比0.3ポイントの減となっております。これは学校にご協力をいただき、給食費未納世帯への督促を行い、それでも納めていただけない方には給食課の職員が電話催告や自宅訪問を行い、徴収努力を行っておりますが、家庭の経済状況や給食費の支払いに対する意識の低下などにより、納めていただけない分がたまっていることが原因でございます。今後とも引き続き徴収努力を重ねてまいりたいと考えております。

それでは、お手元の決算書の1ページをお開き願いたいと存じます。

初めに、上段の収入でございます。

平成22年度に収入すべき合計金額が、調定金額合計で3億1,312万3,434円であります。これは給食費、繰越金、利子等の諸収入の合計額でございます。これに対し実際の収入済み金額が3億870万214円でございます。対前年度比、487万1,875円、1.6%の減でございます。この調定額と収入済額の差額のうち、平成20年度に発生いたしました給食費の未納分、26件、61万2,580円を不納欠損とし、残りの381万640円が収入未済額であります。収入未済額につきましては、平成23年度におきまして、引き続き収入に向け努力を続けるものでございます。

次に、下段の支出でございます。

支出合計額は2億9,933万7,037円で、対前年度比、860万8,934円、率にして2.8%の減でございます。支出の内訳といたしましては、パン及び米の主食費が

4,534万7,657円、肉や野菜、牛乳等の副食費が2億5,398万9,380円であります。

以上のことから、収入済額3億870万214円から、支出済額2億9,933万7,037円を差し引きました額、936万3,177円が平成23年度への繰り越し分でございます。

なお、3ページ以降につきましては詳細資料でございますので、後ほどご覧いただきたいと思います。

以上で報告を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○鈴木委員長 報告が終わりました。

ご質疑があれば、ご発言をお願いいたします。

いいですか。では、私のほうからですけれども、給食費の未納がやはり問題になると思うんですが、過年度の分も含めて、かなり集金率が上がっているのご苦労が多かったと思います。その点はお礼申し上げますが、1つ質問ですが、4ページの21年度分ですね、第六小学校、収入率が8.7%。それから、5ページ、第七小学校、収入率0.0。第五中学校、0.0。七小と五中だから同じ家庭なのかなとも思ったりしていますけれども、こういう家庭はもう市内に住んでいない、転出した子供さんの家庭でしょうかね。

学校教育部長。

○小島教育長職務代理者学校教育部長 転出した場合も追跡をしておりますので、この人の場合は市内には住んでいらっしゃる方で、お支払いがなかなかできないという状況でございます。

○鈴木委員長 ほかにありますか。

土田委員。

○土田委員 先ほど聞いたんですけれども、収入未済額が381万いってありますが、これは21年度と22年度で発生した合計でしょうか。

○鈴木委員長 学校教育部長。

○小島教育長職務代理者学校教育部長 そうでございます。

○土田委員 そうすると、23年度に発生したものが、それが納入されなくて、この不納欠損額にのっているわけですね。20年度か。

○鈴木委員長 学校教育部長。

○小島教育長職務代理者学校教育部長 2年で時効ということでございますので、これは20年度に発生したものでございます。

以上でございます。

○土田委員 はい、わかりました。確認です。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 そうすると、あとの2年のほうが随分額が増えていきますね。20年度に発生した、1年間に発生した60万というのと、あとの21、22年度に発生した381万と、額的にはかなり多くなっていますよね。原因がわかりましたら。

○鈴木委員長 学校教育部長。

○小島教育長職務代理者学校教育部長 徴収の努力というのは、先ほど申し上げましたように、休日訪問、夜間徴収いろいろやっております。そうした中で、やはり最近の経済情勢の悪化等から、支払うことができない家庭が増えているのが1つの要因でございますが、この不納欠損で落ちるものと収入未済額の比較でいいますと、収入未済になっているものを催告をしたり、いただきにあがったりということで収入になるものがございます。ですから、2年間の努力をして、収入をしてなお残ったものが欠損になるということがございます。そういったところで金額的には未済のほうが多いというのが、今の2つの理由になります。

以上でございます。

○土田委員 わかりました。

○鈴木委員長 ほかありませんか。

(発言する者なし)

○鈴木委員長 ないようですから、質疑を終了いたします。

これで、その他報告事項を終了いたします。

◎閉会の辞

○鈴木委員長 以上をもちまして、本日予定しておりました議事日程はすべて終了いたしました。

これをもって、平成23年第7回東大和市教育委員会定例会を閉会といたします。

午後 2時39分閉会

以上の会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため、ここに署名する。

東大和市教育委員会委員長 鈴木 敏彦

会議録署名委員 武石 修一郎